

今年度「折り返し地点」の10月

早いもので、今年度学校生活の後半スタートでもある10月を迎えています。ここでもう一度、各学期のはじめに抱いた願いに向かい子どもたちとともに意識を高めて生活できることを願って、今月の校長講話で話しました。その一部を紹介させていただきます。

【一学期始業式「ひとしずく」】

自分のために、そして誰かのために何か一つでも続けることができるもの「ひとしずく」を見つけましょう、と話しました。

みなさんに話すだけではいけないので、わたしも自分でできる「ひとしずく」を探してみました。



その一つは、「トイレ掃除を一生懸命やる」です。わたしは、6年生といっしょにトイレ掃除をさせてもらっています。このシールがついている日が、できた日です。そして、6年生の姿からいろいろ学ばせてもらっています。ある6年生は、トイレの便器を磨くブラシから、汚れた水が床に落ちることを防ぐために、ブラシのところに手を

添えて（もちろんゴム手袋をしています）、バケツまで持ち運んでいました。

もう一つは、「下校の時に、バスの停留所までいっしょに歩く」です。シールが2つある日が、できた日です。バスに乗る人全員が屋根の下には入ることのできないバス停なのですが、雨が降っているときには、高学年の友だちが低学年の友だちに屋根のある待合室をゆずって、自分は屋根の外に立っていることが分かりました。

みなさんは、どうですか。自分の「ひとしずく」を続けているよってという人は、担任の先生にお話してみてください。

【二学期始業式「自分からあいさつ」「思いやりの心（ふわふわ言葉）」 「自分からあいさつ」

9月22日（土）麻績保育園の運動会でした。お客様の席で、わたしの隣に座った方は、民生児童委員の江森廣幸さんという方でした。その方が、「校長先生、麻績小の子どもたちは、わたしが腕章をつけて横断歩道に立っていると、『さようなら』と明るい声であいさつをしてくれてとても気持ちがい

いですよ。なかには『ありがとうございます』なんて言ってくれる子もいてうれしくなります」と話してくださいました。それを聞いて、わたしは飛び上がりたほど嬉しく思いました。横断歩道を横断した後、止まってくれた車の運転手さんにきちんとおじぎをしてあいさつすることは、麻績小の子どもは100点満点だと思っています。みなさんは本当によくできているので、わたしも胸をはっています。

でも、登校や下校の時に会う地域の方に、自分から明るいあいさつができていないか、始業式にも話したとおり、実は心配をしていたのです。「自分からあいさつ」の100点は、「友だちがあいさつしてくれたからいい



や」とか「よく知らない人だから、あいさつはいいや」とか、「ちがう方を見ていて、気がつかなかったことにしよう」とか考えてしまう人が一人でもいると、達成できません。

「思いやりの心（ふわふわ言葉）」

わたしは、給食の時間、1時からの5分間、お話をしないで過ごしましょう、という麻績小学校の約束事が、とてもよく守れるようになったことを感じます。それは、「〇〇くん、うるさいっ」「しっ」「だまれっ」という注意の言葉が聞こえなくなったことも、一つの理由なのではないかと思っています。友だちのことが気になっても、まずは自分から口を閉じる、その友だちが気づくまで待つてあげる、これも「思いやり」のあらわし方なのではないでしょうか。そして、口を閉じた友だちの姿に気づいた友だちも、口を閉じていく。たった5分間ではあるけれど、麻績小の皆さんの思いやりがあらわれている5分間だと思っています。

11月は「人権なかよし月間」です。だから11月になったら、「思いやりの心」を急にあらわしましょう、「友だちに優しくしましょう」ではない、ということは分かっていると思います。今日から、今から「思いやりの心」について考え合って、11月はそんなお互いのよさをたくさん見つけ合うことができる「なかよし月間」にしたいですね。

わたしからの問いかけに、頷いたり、逆に首を横に振ったりして反応し、考えながら聴いてくれている子どもたちの姿を感じ取っています。残り半分となった30年度の学校生活が、一層生き生きとした子どもの姿としてあらわれることを願って、ともに歩んでいこうとあらためて考えています。